

令和4年度持続可能なみやぎづくりを実現するための環境教育推進事業 事業実績書

【学校名】 高鍋町立高鍋東中学校

事業の実施時期：補助を受けた日から 令和5年2月28日

活動の概要

おもに農業体験活動を通して持続可能なまちづくりを体感するとともに、地元の良さを再認識し郷土を愛する気持ちと自然を大切にしようとする心を育成することを目的とし、年間を通して活動した。

SDGsの視点：「11 住み続けられるまちづくりを」「12 作る責任 使う責任」

1 学校の概要

昭和22年開校。秋月藩の「明倫」の精神を継承し、「気品と風格のある学校づくり」を基調としながら文武両道の精神を掲げ教育活動に取り組んでいる。また、高鍋町は児湯地区の中心に位置し、畜産をはじめ野菜や米の生産も盛んで、豊かな自然を背景に、宮崎県の食糧庫としても中心的な役割を担っている。

2 活動のねらい

- ① 地域の人材や資源を通して、SDGsの視点を意識した農業について学び、食や自然に対する意識を高める。
- ② 地域や家庭と連携して農業に取り組み、持続可能な地域づくりを实践できる生徒を育成する。

3 活動内容

（1）高鍋農業高校と連携した農業体験活動

畜産、園芸、食品科学、フードビジネスの4学科をグループごとに巡り、それぞれの学科で先輩たちからの説明や実技体験を行った。畜産科では、牧場見学や牛の世話体験、フードビジネス科ではキラゲの駒うち、ラジコン草刈り機の操

作、食品科学科では色素の実験等を行っていただいた。

体験した生徒たちは「これまでのイメージと違って、科学の最先端を使って農業をしているのに驚いた」「先輩たちが牛をととても大切に育てているのを見て感動した」などの感想が聞かれた。



（2）地元の農家の方による土づくりの指導と講話

土づくりの重要性について講話をしていただき、実技講習を行っていただいた。牛糞と米ぬかをよく混ぜ、ダンボールをかぶせ数日発酵させる。米ぬかが微生物のえさとなり、理想的な土が出来上がる。牛糞は地元の牧場から分けていただき、米ぬかは農家の方から余ったものを無償で分けていただいた。

(3) 野菜の栽培活動

校内の花壇を使って野菜の苗植え、育成、収穫、試食を行った。9月に苗の植え付け、10月から12月まで育成、その間毎日の水やりや観察、防虫ネットの設置やキュウリ、ピーマン等の支柱の設置等を行った。作物の種類や植え付けの時期については、農家の方と相談し、秋の時期に最適なものを選んで植え付け、環境にも配慮し無農薬での栽培を行った。



(4) 農業やSDGsに関する図書コーナーの設置

廊下の棚の一角にミニ図書コーナーを設置した。栽培の基本やSDGsについて分かりやすい本を厳選して置いたので、手軽に取ってみる生徒や朝自習の時間に読む生徒の姿が見られた。



4 成果と課題

(1) 成果

- 農業の基本を一から学ぶことで農業を身近に感じ、持続可能なまちづくりへの意識を高めることができた。
- 収穫した作物を試食することで食育のよい機会となるとともに地元の自然を見直し、郷土の良さをあらためて感じる事ができた。

(2) 課題

- 環境教育は天候にも左右されやすいので、計画を立てる部分での難しさを感じた。
- 生活のあらゆる場面で4Rを意識するためには、まだまだ経験と学習が必要だと感じた。

収穫後の野菜からは大量の廃棄物（食べられない部分の葉や根っこなど）が出たため、コンポストを利用し、土に分解して肥料にすることにした。細かく刻んだ葉や根っこをコンポストに投入し、そのあとEM菌をまぜてふたをする。すると3～4週間後には分解が進み、肥料として再利用することができた。

学校名：高鍋町立高鍋東中学校

住所：高鍋町大字北高鍋3321

電話番号：0983-23-0046

E-mail：4513ja@miyazaki-c.ed.jp